# Ⅲ．田原市博物館を訪ねて

新垣　夢乃

## 一．きっかけ

きっかけは、公益財団法人崋山会のホームページである。そこには、紙芝居「渡邊崋山先生」が掲載されている（https://www.kazankai.jp/kazan_kamishibai.php?page_id=1）。

HP には正確な制作年は記されていないが、「昭和初期に作成された」という説明が付されていた。そこで、詳細を確認しようと崋山会へ問い合わせたところ、紙芝居自体は隣接する田原市博物館が所蔵していると、すぐに博物館へ問い合わせてくださった。それにより、田原市博物館学芸員の鈴木まりな氏とお話することができ、紙芝居の閲覧と撮影に向けて手続きを行うことができた。

実際の調査は、2022 年 5 月 13 日に、調査メンバー新垣夢乃により行った。

## 二．田原市博物館

田原市博物館は、田原城址に位置する博物館である。この田原城は、かつての田原藩の藩庁である。渡辺崋山（1793-1841 年）は、田原藩の藩士の家で生まれ、後に家老を務めている。田原市博物館の周辺には、渡辺崋山を祀った 1946 年創建の崋山神社がある。

田原市博物館は、田原市の歴史や渡辺崋山の作品などが収蔵されている。

写真　田原市博物館

田原市博物館に隣接する崋山神社

## 三．紙芝居調査の成果

今回の調査では、1 点の作品を撮影した。その内容は下記の通りである。

【3】愛知県田原市立博物館

| | タイトル | 作者 | 出版社 | 出版年 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 渡邊崋山先生 | 大須賀初夫文・小澤耕一絵 | 愛知県内政部振興課 | 不明 | 新規発掘 |

周知の通り開国論の立場をとった渡辺崋山は、蛮社の獄により蟄居、その後、切腹している。その渡辺崋山の顕彰は、明治に入って本格化し、1946 年には崋山神社が創建されている。

愛知県内政部振興課が制作した紙芝居『渡邊崋山先生』もこの崋山神社創建をめざしたセリフによって締めくくられている。

> 先生生前の功績は　畏くも　天聴に達し、先生の歿後五十年祭に際し、贈正四位の御沙汰を拝しました。
>
> 百年の歳月は夢の如くに流れ、今や我が国は米英打倒の為に奮い立ち、茲に大東亜戦争を戦ひ抜くに当り、この大先覚者を憶うこと切なるものがあります。
>
> 今や旧里田原には国民の鑑として崋山神社建立の計画が進められてゐます。
>
> 一億国民奮起する秋は来ました。
>
> 職域は正に戦場であり、貯蓄は正に民族興廃の指標にほかなりません。

民族の一念を結集して地軸を貫くこの聖戦を逞しく完遂しようではありませんか。

「見よや春大地も享す地蟲さへ」

［紙芝居『渡邊崋山先生』、21 枚目］

渡辺崋山の死から「百年の歳月」が流れ、「大東亜戦争」という記述があることから、この紙芝居が制作されたのは 1941 年頃だと考えられる。この紙芝居が制作されたと考えられる 1941 年は、渡辺崋山の没後 100 年を迎える時期であった。そのため、「渡邊崋山先生」は、地域において先覚者を顕彰する動きのなかで生まれた作品であると考えられる。

類似したケースとして、明治の維新志士に先駆けた「勤皇烈士」と讃えられた高山彦九郎を題材とした紙芝居「高山彦九郎」（1942 年）も、高山彦九郎没後 150 周年を顕彰するなかで制作されている[*1]［新垣 2018：131］。

これらの事例からは、地域の人々が明治の先覚者を地域史的な方法で顕彰するなかで、その功績と精神を広く知らしめる役割が紙芝居に期待されていたことがわかる。昭和維新は明治維新の精神の復興をキーワードとしていたことを考えると、紙芝居制作の過程でこの精神がどのように意識され、どのように伝えられようとしていたのかを読み解く必要があるだろう。

## 謝辞

午後に名古屋での調査を控えた、慌ただしい調査ではありましたが、田原市博物館の鈴木まりな氏にはご親切に対応いただき、渡辺崋山のこと、田原市のことを多くご教示いただきました。ここに感謝を記したいと思います。ありがとうございました。

*1　新垣夢乃「高山彦九郎」『国策紙芝居からみる日本の戦争』勉誠出版、2018 年、131 頁。

崋山神社の由緒